

日本語とインドネシア語の慣用句の対照の研究

(社会言語学から見て)

ウィナパ lindra

0342077

マラナタキリスト大学

日本語日本文学部

2010

序論

言語は社会構成員間におけるコミュニケーション手段である。言語を通して、人は他人に自分の思考、感情を伝えることができる。世界にはさまざまな言語があり、それぞれ使用する社会の文化、環境を表しているよナババン葉言う。この文化、社会環境を背景に、それぞれの言語はそれぞれの特徴を持っているのである。本論文では日本語とインドネシア語の感情を表す慣用句にいかなる異同があるか研究分析する。

本論

慣用句というのは二語が結合し、その全体が一つの意味を表すようになって固定したもの。また、二語以上が、きまった結びつきしかない表現とある。つまり、慣用句というのはそれらを構成する語がきまっており、それぞれが全体である決まった意味を表している表現ということができる。

日本語には感情に関わる慣用句がたくさんある。それらの感情は喜怒哀楽また恥辱というものに含けることができる。例えば怒りの感情を表すとき、日本人は「腹が立つ」や「頭に来る」という慣用句を使うのである。これらはインドネシア語の「Naik Darah」に当てはまるであろう。また、嬉しさを表すため、日本人は「天にも昇る心地」という慣用表現を使う。

一方、インドネシア人は「Serasa Berada Di langit Tujuh」という慣用表現を使

うのである。

日本語の「天にも昇る心地」は非常に嬉しくて、うきうきな気持ちという意味を表している。この日本語の慣用句は日本人の信仰宗教、仏教がその背景にある。仏教では人生の最終の目的場所として、天国というものの存在が信じられている。天国というのは最も美しく、最も安楽な場所であると考えられている。

一方、インドネシア語の「*Serasa Berada Di Langit Tujuh*」という表現はイスラム教がその背景にある。イスラム教では、空は七層からなり、その最高層が策七層の空であると信じられている。そして、その策七層の空には神がいると考えられている。ここから比べものがないほど嬉しいという意味になるのである。上記の慣用句から見ると、両者には異同がある。同様の点として、天が神々がいるところであるという点である。しかし、信仰宗教の違いによって、それぞれの天に関する概念が異なっているのである。

結論

日本語とインドネシア語の感情、感覚を表す慣用句を対照研究した結果、次の結論を引き出すことができる。

- 日本語のそれはその比喩的な意味が構成語からあまり見ることができない。一方、インドネシア語のそれはその比喩的な意味が構成語に現われている。
- それぞれの国の文化、習慣、歴史策と言う背景がそれぞれの慣用的な表現にその違いの事になっている。

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR.....	i
DAFTAR ISI.....	vi
BAB I PENDAHULUAN.....	1
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 RumusanMasalah.....	7
1.3 Tujuan Penelitian.....	7
1.4 Metode & Teknik Penelitian	8
1.5 Organisasi Penulisan Skripsi.....	9
BAB II KAJIAN TEORI.....	11
2.1 Sociolinguistik.....	11
2.1.1 Topik-Topik Sociolinguistik.....	13
2.1.2 Bahasa Dan Kebudayaan.....	15
2.2 慣用句 Bahasa Jepang.....	17
2.2.1 Definisi <i>Kanyouku</i>	17
2.2.2 Konstruksi <i>Kanyouku</i>	19
2.2.3 Ciri-Ciri <i>Kanyouku</i>	24
2.2.4 Jenis-Jenis <i>Kanyouku</i>	26

	2.2.5	Klasifikasi <i>Kanyouku</i>	30
2.3		Idiom	36
	2.3.1	Definisi Idiom.....	37
	2.3.2	Konstruksi Idom.....	38
	2.3.3	Ciri-Ciri Idiom.....	39
	2.3.4	Jenis-Jenis Idiom.....	40
	2.3.5	Klasifikasi Idiom.....	40
BAB III	ANALISIS KONTRASTIF	慣用句 ‘PERASAAN’ DALAM	
		BAHASA JEPANG DAN BAHASA INDONESIA.....	47
3.1		慣用句 <i>kanyouku</i> ‘perasaan’	47
	3.1.1	Perasaan Senang.....	49
		3.1.1.1 心を引かれる & <i>Berkembang Hati</i>	49
		3.1.1.2 天にも昇る心地 & <i>Serasa Berada Di Langit</i>	
		<i>Tujuh</i>	52
	3.1.2	Perasaan Marah.....	56
		3.1.2.1 青筋を立てる & <i>Naik Pitam</i>	56
		3.1.2.2 頭から湯気を立てる & <i>Tersimbur Darah</i>	
		<i>Di Dada</i>	60
	3.1.3	Perasaan Sedih	63
		3.1.3.1 血の涙 & <i>Berkering Air Mata</i>	63

3.1.3.2	生身を削る & <i>Menyayat Hati</i>	66
3.1.4	Perasaan Takut.....	70
3.1.4.1	頭から水を掛けられた & <i>Keluar</i> <i>Keringat Dingin</i>	70
3.1.4.2	思案投げ首 & <i>Berada Di</i> <i>Persimpangan Jalan</i>	73
3.1.5	Perasaan Terkejut.....	76
3.1.5.1	開いた口がふさがらない & <i>Lidah</i> <i>Terganjil</i>	76
3.1.5.2	息を呑む & <i>Kena Pukau</i>	80
3.1.6	Perasaan Malu.....	83
3.1.6.1	赤くなる & <i>Merah Muka</i>	83
3.1.6.2	恥をかく & <i>Menanggung Malu</i>	86
BAB IV	KESIMPULAN	90
	SINOPSIS	X
	DAFTAR PUSTAKA	Xiii
	LAMPIRAN I: DATA	XV
	LAMPIRAN II : KLASIFIKASI DATA	XXXVII
	RIWAYAT HIDUP PENULIS	LiX